

# Wetlands Greenwave

水のつながり  
命のつながり



WETLANDS GREEN WAVE

湿地のグリーンウェイブ2024





# Life interlaced Wetlands and people

CARE - NURTURE - SUPPORT



## 世界湿地の日・湿地とは

ラムサール・ネットワーク日本

理事 安藤 よしの

[ラムサール条約世界湿地の日 2024 のマテリアルより]

「世界湿地の日」は、1971年に採択されたラムサール条約の誕生記念日で、1997年以来、毎年2月2日に祝われています。2024年のテーマ「湿地と人間の幸福」は、歴史を通じて、湿地と人間の生活との相互の結びつきを明らかにし、人間が湿地をより良い状態に管理する必要性が強調されています。

湿地は、地球の地表全体の約6%を占め、水を貯え浄化するなど、地球上のすべての生命を支える必要不可欠な生態系で、河川、湖沼、泥炭地、干潟、マングローブ、サンゴ礁、水田などがあります。

## 湿地と水・人間の暮らし

私たちに必要不可欠な淡水は、地球上の水のわずか2.5%で、そのうち人間が直接利用できるのは1%未満です。その貴重な淡水のほとんどすべてを湿地が供給しています。湿地の土壌と植物が自然に水をろ過し、蓄えるところから、湿地は地球の腎臓ともいわれています。

何千年もの間、人びとは魚やその他の食料源、作物や家畜のために必要な淡水を求めて、湿地の近くに集落を築いてきました。世界の貧困地域では現在でも、湿地に依存して食糧を得ていることが多くあります。

世界の灌漑農業面積は、50年間で倍増し、湿地からの取水の70%は農業用です。

健全な湿地は浄水の確保、食糧安全保障と栄養の多様性、きれいな空気、医薬品、気候の安定化、異常気象からの保護などに役立ちます。22億人が安全な飲み水を手でできない状況ですが、世界の湿地をよりよく管理することで、清潔な飲料水を供給し、非衛生的環境と乳幼児死亡率を劇的に減らすことができます。

また、湿地が提供する自然とのつながりは、精神的健康の向上に貢献し、釣り・水泳などのレクリエーションの機会を提供し、人びとがリラクゼーションしてストレスに対処できるようにします。

さらに、湿地は人びとに仕事を提供し、貧困の撲滅をサポートすることで世界の経済に貢献しています。およそ8人に1人（世界で10億人以上）が、稲作・漁業などの食料関係や水の供給、輸送、観光業など、湿地の恵みで生計を立てています。また、工業用の淡水も供給しています。

## 気候変動の影響の緩和と適応への貢献

湿地は高潮・ハリケーン・津波などから沿岸域に暮らす人びとの60%を守り、内陸部の湿地は、洪水を減らし、干ばつを遅らせ、緩和するのに役立っています。

そして湿地は、地球上のどの生態系よりも多くの炭素を貯留しています。

ブルーカーボン生態系\*は、植生・土壌・堆積物にCO2を貯留し、地球の気候を調節するうえで最も価値のある生態系のひとつとなっています。泥炭地は地球上の土地の3%を占めるだけですが、陸地に存在する炭素の30%を貯留しています。

## 湿地の危機

湿地は森林の3倍の速さで失われています。1700年代以降、全湿地の80%以上が消失し、気候変動・自然の喪失・汚染という地球的危機は、人間の健康に害を及ぼしています。

なかでも湿地はほかの生態系よりも速く減少しており、過去50年間で、内陸湿地種の81%、沿岸・海洋種の36%が減少しています。水質汚染やプラスチック汚染、乱獲は、外来種とともに湿地の生態系に害を及ぼしています。都市が成長し、土地の需要が増加するにつれ、開発が湿地を侵食しています。

## 今、行動することが必要です

将来世代の幸福のためにも、世界の湿地を大切に、保全回復するための取り組みに参加しましょう。

## 私たちができること：

- ・湿地の価値を理解する。
- ・湿地のワイズユース、持続可能な利用を確実に実施する。
- ・湿地の保全と回復に必要な資金獲得の仕組みを作る。

\*陸域生態系が隔離する炭素を「グリーンカーボン」と呼ぶのに対し、沿岸・海洋の生態系のもものは「ブルーカーボン」と、海藻藻場、海藻藻場、湿地・干潟、マングローブ林などは「ブルーカーボン生態系」と呼ばれ、注目されている。

## 渡良瀬プロジェクト

ラムサール・ネットワーク日本  
事務局 後藤 奈穂美



ラムネットJは、渡良瀬遊水地コウノトリ・トキ定着推進協議会と連携して、渡良瀬遊水地と周辺水田をコウノトリの生息地として保全・管理する取り組みを2022年から行っています。プロジェクトは大きく3つの柱からなります。

- (1)コウノトリの生息環境を整える事業
- (2)近隣農家との協力事業
- (3)CEPA活動

1つ目は、コウノトリの生息地の保全・管理です。渡良瀬遊水地の調整池における計画的な大規模掘削は国土交通省が担っています。本プロジェクトで担当するのは、人力や小規模な機械を用いた、あくまでも軽微な管理部分です。除草作業や、生き物が棲みやすくなるよう水たまりができるように凸凹に掘削する作業などが含まれます。これまで複数の業者に依頼して、草刈り機や重機のデモンストレーションを実施しました。同時並行して、協議会のメンバー3名は重機操作の講習を受講して準備を整えました。この春に最終的に機種を選定したのち、定期的な草刈りと掘削の活動がスタートすることになります。

2つ目は、地元の農家との協力です。本プロジェクトの趣旨に賛同し、ご自身の田んぼに「江」\*1を設置していただける農家さんを募ってきました。これまでに4件の農家が手を挙げてくださいました。場所によっては、田んぼの一行を深く掘るだけの江で





はなく、不定形の土地に、四角く田んぼを作った際、余った部分をすべて江にしてもよいと言ってくださる農家もあり、より広い面積を確保することができそうです。

最後に、3つ目のCEPAプログラムです。先のコウノトリの生息地を管理するための草刈りだけでなく、地元の子どもたちが遊水地に入って学習活動ができるように、歩いて入れるよう、草刈りをして道を整備するなど、学習フィールドの整備を行います。夏場の草は、あっという間に伸びてしまいますので、こまめな草刈り作業が必要になってきます。

また、協議会が長年培ってきたノウハウを環境学習ハンドブック(冊子)にまとめて各学校に配布する予定です。学校のほかにも、遊水地の観光拠点などでも、来訪者に手に取ってもらえるよう多めに準備することを想定しています。冊子の制作は今年度から開始して年度末までに印刷する予定です。

\*1「江」(承水路):水田の一部に通年湛水状態を創出して水生生物の生息環境を確保するもの。



## 日韓NGO湿地フォーラム

ラムサール・ネットワーク日本  
共同代表 永井 光弘

このフォーラムは、2008年から毎年、日韓の湿地NGO(韓国はKWNN、日本はラムネットJ)が交替で主催し、互いに主催国の現地に訪れて開催してきました。コロナ禍の2年はやむなくオンラインでの開催となりました。2023年度で開催は18回を数えます。当初は、2009年のラムサール条約COP10(韓国・昌原)開催にあたり、COP5(日本・釧路)での日本の湿地NGOの経験を韓国NGOと共有するという目的で始まりました。世界各国の草の根湿地NGOの、COPでの発言力強化も目指していたので、COP10の機会に世界湿地ネットワーク(WWN)の発足にも大きく貢献し、現在も日韓NGOはWWNの有力メンバーです。



このフォーラムでは、ずっと日韓の湿地保護に関する差し迫った問題について互いに報告し、打開策を議論してきました。また、お互いの国の湿地保護の法制度を学び、湿地保護のための現地での実践や工夫も共有してきました。互いに両国の主要な湿地にも、エクスカージョンで訪れています。日韓の抱える問題は、法制度や政治的な背景は違っても、驚くほど共通点があります。これからも互いの経験から学び、それを互いの湿地保護に役立てていくことによって、生物多様性に富んだより良い未来の形成に貢献したく考えています。

## 田んぼの生物文化多様性 2030プロジェクト

ラムサール・ネットワーク日本  
共同代表 金井 裕

田んぼは古来より人に最も近く、親しい湿地の1つでした。主食のお米を作り、おかずとなるフナやドジョウが育ち、稲わらは生活具の材料として欠かせず、赤とんぼや蛙たち多くの良き隣人が居る場所でした。稲作と田んぼは、私たちの暮らしや文化と一体のものでした。しかし、田んぼを「米の生産のみの場」と見なした耕地整備事業により田んぼから生きものが消え、生活資材がプラスチックの工業製品に置き換わり、私たちの生活と切り離されてしまいました。

田んぼと生きものたちと私たちのつながりを現代にあった形で取り戻す、それが田んぼの生物・文化多様性2030プロジェクト(田んぼ2030)です。

田んぼ2030では、ラムサール条約の水田決議が目指す湿地生態系としての田んぼの機能向上のため、



生物多様性保全の世界目標である昆明・モントリオール目標に対応した22の水田目標を掲げて活動しています。生きものが暮らしやすい田んぼとするための活動だけでなく、農家を支える作物の流通、消費など都市に暮らす方々の活動も含まれます。そして、最新の技術や研究成果を共有するためにオンラインのミニフォーラムや、各地で活動している方との交流会の開催、ニュースレター「田んぼだより」の発行を行っています。

湿地のグリーンウェイブに参加されている方々には、この機会に田んぼを訪れて、ぜひ、今の田んぼの姿を見ていただきたいと思います。



### 「湿地のグリーンウェイブ」とは

「国際生物多様性の日」の5月22日を中心に、生物多様性を向上させる活動が世界各地で開催されました。この取り組みを湿地で広げるために、ラムサール・ネットワーク日本は、2011年から「湿地のグリーンウェイブ」として独自にキャンペーンを展開しています。ラムサール条約事務局が発行した『世界湿地概況(GWO)2021』によれば、世界の湿地は1970年以降35%が消失していて、最も危機的な生態系の1つです。湿地で生育・生息する生きものの4分の1が絶滅の危機に瀕しています。一方、2022年に開催された生物多様性条約COP15では、新しい世界目標「昆明・モントリオール生物多様性枠組み」が採択され、日本の生物多様性国家戦略も改定されます。私たちにできる活動は小さなものかもしれませんが、小さな一滴(ひとしずく)がやがて大きなうねりとなるように、湿地のグリーンウェイブを大きく育て、「人と自然の共生する社会」の実現を目指しましょう。

●キャンペーンの期間／5月22日(国際生物多様性の日)を中心とした4月～7月

湿地のグリーンウェイブは多くの自然保護団体の協力で支えられています(順不同)

(公財)世界自然保護基金ジャパン(WWFジャパン)



(公財)日本野鳥の会



特定非営利活動法人 日本国際湿地保全連合



(公財)国際自然保護連合日本委員会



(公財)日本自然保護協会(NACS-J)

水田・ため池

【北海道】

## えこりん村 (株式会社アレフ)



### 生きもの育む田んぼでお米作りを体験!

ハンバーグレストランびっくりドンキーを全国展開する株式会社アレフは、北海道恵庭市の自社施設えこりん村内に「ふゆみずたんぼ」を公開しています。約1反の小さな田んぼですが、農業を使用しない、生きものにやさしいお米づくりをしており、30種以上のトンボやさまざまな水辺の生きものが観察できます。周囲に池、林、川がある自然に恵まれた環境のなか、田植えや稲刈り、脱穀などのお米づくり、生きものの観察会や外来種カエル駆除、わら細工など、お米づくりと生物多様性、稲作文化を感じられる体験を開催しています。

<http://www.ecorinvillage.com/>

TEL 0123-34-7800(えこりん村サポートセンター受付時間 9:30~17:00)

湿原・湖沼・河川・ため池・河口・  
汽水域・砂浜・干潟

【北海道】

## 北海道湿地踏査団



### 北海道内の無名湿原を自ら歩き、その存在を発信する

当団は、特定の湿地や既知の湿地の保全活動に縛られることなく、北海道の湿地、とりわけ無名湿地や未調査の湿地を踏査し、その実態を明らかにし、存在を発信していきます。今年度は絶滅危惧植物ハナタネツケバナの現存状況を確認すべく、5月中旬~6月中旬の北海道東部の湿原を歩きます。

<https://www.facebook.com/HokkaidoWetlandExplorers/>

E-mail/ezg01473@nifty.com

TEL 090-5898-0475

湿原・湖沼

【北海道】

## ヨコハマタイヤリトレッド(株) 北海道事業所



### ウトナイ湖の環境を守り自然と共存!

ウトナイ湖湿地の自然観察路周辺の外来植物分布を調べて、外来種オオアワダチソウが多い地点で抜き取りを行い、その効果を確認しています。「外来種とは?」「なぜ除去する必要があるのか?」を勉強し、日本野鳥の会が日本で最初に開設した「サンクチュアリ」の保全活動を通じてウトナイ湖の自然と共存を目指しています。2017年から始めた外来植物の抜き取り活動は、ステークホルダーである関連会社も参加する大きな活動になりました。2024年からは日本野鳥の会の依頼で、「小鳥の餌場の修復」「観察路の草刈」などウトナイ湖周辺の美化活動も行っていきます。

<https://www.y-yokohama.com/group/ytr/>

E-mail/hiroko.fukuda@y-yokohama.com

TEL 0144-58-2411



湿原・湖沼・水田・河川・里山・ため池・  
河口・汽水域・砂浜・干潟・室内【宮城県】

## 陸前古川水草研究会



## 「水草」から見えてくる世界

「陸前古川水生植物研究会」は、2022年に発足しました。水草を中心に宮城県北で植物の調査を行うことがおこなわれる活動の1つです。宮城県北では、年々湿地が減少しているものの、田園地帯が広がる場所が残っており、大小さまざまな河川や湖沼が散在し、豊かな自然環境が見られる場所もあります。宮城県では絶滅が危惧されているような植物が残っていることも多いようです。こうした植物の分布を調査し、保全活動につなげていくことができればと考え、諸活動に取り組んでいきます。

E-mail/shoebillintohoku@gmail.com

湿原【栃木県】

## 小山市渡良瀬遊水地 エコツーリズムガイド協会



## 渡良瀬遊水地の豊かな自然を ボランティアガイドがご案内します。

ラムサール条約登録湿地・渡良瀬遊水地の四季折々の自然や周辺地域の歴史・文化を、ガイド活動を通じて発信しています。児童生徒の社会科学習や一般のみなさんへのガイド活動に加え、渡良瀬遊水地のヨシを使ったミニヨシズやヨシ灯り作り講座を実施するなど、さまざまな遊水地に関わるイベントで活動しています。渡良瀬遊水地の四季を広く一般のみなさんにも楽しんでいただくために、「第2調節池自然観察会」を参加費無料で年4回開催しています。より多くのみなさんにお気軽に参加いただきたいと思います。

<https://sites.google.com/view/oyamawatarase>

E-mail/oyama.watarase.guide@gmail.com TEL 0285-22-9354

湿原・湖沼【栃木県】

## 渡良瀬遊水地を守る 利根川流域住民協議会



## 渡良瀬遊水地の湿地再生・未来へ

ラムサール湿地の渡良瀬遊水地の湿地の保全と再生に向けて、湿潤地のヤナギ林化をふせぐため、ヤナギ除去作戦とその後の湿地再生(人的かく乱)作戦をすすめ、マガンやシギチを呼び活動をはじめました。今後もこの活動にぜひご参加ください。参加費は無料です。今年は観察会の後、湿地再生活動を行います。

<http://www.watarase-kyougikai.org>

E-mail/watarase@cc9.ne.jp

TEL 0282-23-1078

湿原・河川・河口・汽水域・浅海域  
【千葉県】

## フィールドミュージアム・ 三番瀬の会



## 三番瀬の生物多様性を観察しその生態系を守る

干潟フィールドで、実際に見たり、聞いたり、触れたり、匂いを感じたり、味わったり五官を通し、生きものの生活を観察しています(千葉県中央博物館の専門家の指導を受け、正しい、広い知識を得ることもできます)。たくさん生きものがそれぞれ精いっぱい生きていく姿(生物多様性の豊かさ)を見て、感じてもらい、これらの生きものを未来に引き継ぎ、守るための生態系の課題解決をいっしょに考えてもらいたいと思っています。

E-mail/kiyoshi092712345@gmail.com

TEL 090-4532-4137



水田・里山

【千葉県】

## 土の学校



## お米作り体験を通して自然と親しみ、農業や地域の環境について考えます。

「土の学校」は農業、農村文化、環境教育などに関心のある人たちが集まって有志で実施している「お米づくり体験学習」です。お米づくり体験を通して自然と親しみ、共存することを考えるきっかけづくりと仲間づくりを目的として「土の学校」を企画・運営しています。土に触れたり、生産現場を見たり、農家の方たちと交流することが自然と私たちのつながりを考える上で大切なことだと実感しています。春から秋まで5回農業体験と交流をします。毎回ご飯とお味噌汁を作り、みんなでいただきます。

<https://www.facebook.com/tsuchinogakko>

TEL 070-5579-1321

水田・河川・ため池・河口・汽水域【静岡県】

## 市民部活 浜松・魚部



## 「誰でも気軽に参加できる市民部活」

浜松・魚部は、日本でも珍しい汽水湖・佐鳴湖へ流入する河川をメインフィールドとして毎年4月から生き物観察会をしています。『自然に興味はあるけど、どう接すればいいのかわからない』という人たちに、遊びを通じて身近な自然や生きものに会い、楽しさやおもしろさ不思議さを感じて、いろんなことに気づき自然に対する感性を磨きます。ガサガサ遊びを通じて自然に対する感性を磨きます。

[https://www.instagram.com/hamamatsu.gyobu?igsh=MTRzYzU0dWlnD3lZlNQ%3D%3D&utm\\_source=qr](https://www.instagram.com/hamamatsu.gyobu?igsh=MTRzYzU0dWlnD3lZlNQ%3D%3D&utm_source=qr)

E-mail/shizuoka.gyobu@gmail.com

TEL 090-5118-0926

水田・河川・里山・ビオトープ【静岡県】

## 湖西フロンティア倶楽部



## 自然の恵みを生かし、楽しむ、おちばの里づくり

「自然の恵みを生かし、楽しむ、おちばの里づくり」を目指しながら、1992（平成4）年4月に発足した会社員、自営業、公務員など、さまざまな立場の人が集まった市民団体です。発足から地域福祉の推進、地域の自然保護や文化の継承、青少年リーダーの育成等の活動に取り組みながら、各種団体と連携し、ふれあいを楽しむ地域づくりに取り組んでいます。

<https://www.kosai.org/>

E-mail/kosaifront@yahoo.co.jp

河川・河口・汽水域

【岐阜県】

## よみがえれ長良川 実行委員会



## 長良川河口堰の開門調査を実現しよう！

長良川は河口堰によって汽水域を失い、豊かな生態系は破壊されました。私たちは、河口堰の開門をめざし関係機関への要請行動、長良川の実地調査やパネル展を行っています。

<http://dousui.org/>

E-mail/mutohitoshi@yahoo.co.jp

TEL 090-1284-1298



室内・湿地環境全般

【愛知県】

## 劇団シンデレラ



## 夢と希望と冒険 そして自然を守る

「夢と希望と冒険、そして自然を守る」をテーマに、これまで数多くの「自然環境の保全」「森林の保全」「野生生物との共存」をテーマとしたミュージカルを、愛知県尾張地方を中心に北は北海道から南は沖縄、さらにはタイ、インドなどアジア各地で上演してきました。「自然保護」を声高に訴えるのではなく、ときに笑いや涙も交え、子ども～大人まで、さまざまな人たちに楽しんでもらいながら伝えることを大きな目的として活動しています。

<https://cinderella.studio.site/>

E-mail/flawless\_tomoko@yahoo.co.jp

TEL 090-8499-0029

河口・汽水域・砂浜・干潟

【愛知県】

特定非営利活動法人  
藤前干潟を守る会

## 藤前干潟とその流域、生物多様性を保全する活動を展開しています。

名古屋市のごみ処分場建設計画から藤前干潟を守るために、1987年に活動を開始しました。その後、1999年の計画中止および保全確定を経て、2002年のラムサール条約登録を期に、2003年にNPO法人格を取得しました。私たちNPO法人藤前干潟を守る会は、藤前干潟の保全の歴史とそこに見える、環境保全のメッセージを多くの人に伝え、藤前干潟とその流域、生物多様性を保全する活動を展開しています。今年も「干潟の学校」(観察会)などさまざまなイベントを予定しておりますので、ぜひ、遊びにいらしてください。

<https://fujimae.org/>

E-mail/info@fujimae.org TEL 080-5157-2002

河川・里山・ため池

【三重県】

## 魚と子どものネットワーク



## 魚が棲める水環境を次世代に・・・

魚と子どものネットワークは魚が棲める水環境を保全し、それを次世代に伝えていくことを目的として設立されました。水辺に魚が泳ぎ、子どもたちがイキイキと暮らせる環境は、自然環境としても、社会環境としてもすばらしいものではないでしょうか。そんな光景をいつまでも見続けられるようにしたいという想いが、私たちの活動の原動力となっています。さまざまなネットワークを通して私たちの活動を知ってもらい、同じような考えをもっている仲間をみつけないと思っています。

<http://sakanatokodomo.web.fc2.com/>

E-mail/maeterlinck\_fantasy@hotmail.co.jp

TEL 090-1478-4756

河口・汽水域・砂浜・干潟

【和歌山県】

## 和歌山大学教育学部



## 親子で参加・体験できるゆるい観察会です。

和歌浦干潟で春と秋に、有田川干潟で夏に観察会を行っています。就学前児童とその保護者といった親子連れでの参加が多いですが、お一人様も含めいろいろです。

E-mail/tkoga@wakayama-u.ac.jp

TEL 090-4499-3157

湿原・水田・里山・室内 【福井県】

## NPO中池見ねっと



## 中池見湿地の豊かな自然を、この大切な育みの場を、次の世代へ

NPO法人中池見ねっとは、福井県敦賀市にあるラムサール条約湿地・中池見湿地の保全および湿地の持続可能な利用を図り、自然と人が共生する豊かな社会の実現に寄与することを目的として活動しています。水田生態系保全のためのミニ田んぼサポーター事業や外来生物の防除活動に加え、湿地内にある茅葺き古民家を利用した「なかいかけみカフェ」などを通して、生き物豊かな湿地の魅力を伝えています。

<https://nakaikeminet.raindrop.jp/>

E-mail/[info@nakaikeminet.raindrop.jp](mailto:info@nakaikeminet.raindrop.jp)

TEL 090-8269-9801

浅海域 【京都府】

## 宮津∞麦のね宙ふねっとワーク



## ゲノム編集とらふぐをふるさと納税返礼品にしないで!

京都府宮津市、天橋立のある風光明媚な海の街に、しらぬまにゲノム編集魚の陸上養殖施設が！さらにはふるさと納税返礼品にゲノム編集とらふぐが登場し、取り下げを求めて市民グループを結成。署名や請願、集会などを展開してきました。ゲノム編集魚が海洋流出する危険性や、魚を苦しめるその技術、人体への安全性について充分な議論がなされないままに、表示もされことなく流通が始まっています。食料危機を救うと言われている生物がどんなものなのか、関心を寄せてください。

<https://www.facebook.com/mugifune>

E-mail/[yoccola.i@gmail.com](mailto:yoccola.i@gmail.com)

TEL 090-4303-1730

湿原・河川・ため池 【大阪府】

## 和亀保護の会



## 在来淡水性カメ類の保全とそのための環境づくり

在来淡水性カメ類の保護を目的に2004年に設立。大阪府茨木市・摂津市を流れる大正川と兵庫県東播磨地域のため池、福井県敦賀市の中池見湿地を中心に活動している。おもな活動は一年を通しての捕獲調査、外来動植物の防除、清掃活動、イベントなどでの啓発活動。また活動で得られたデータをまとめて、研究会や学会で発表している。地元、活動団体、行政などと連携・協働して、楽しく息の長い活動ができるよう心掛けている。活動参加を希望される方はHPより連絡されたい。

<http://www.wagamehogonokai.sakura.ne.jp/>

E-mail/[kamenanosa529@yahoo.co.jp](mailto:kamenanosa529@yahoo.co.jp)

TEL 080-6159-8414

河口・汽水域・砂浜・干潟・浅海域・埋め立て地 【岡山県】

## たましま 干潟と鳥の会



## 玉島の未来に渡り鳥の集う干潟を残したい!!

たましま干潟と鳥の会では2024年5月に干潟のいきもの観察会、6月にコアシサシの観察会などを実施予定です。また玉島の干潟マップ作りも現在進めています。

詳細情報はホームページで随時公開してまいりますのでぜひご参加ください!!

<https://tamashimahigata.wixsite.com/website>

E-mail/[tamashima.higata@gmail.com](mailto:tamashima.higata@gmail.com)

湖沼・水田・河川・ため池・河口・汽水域・砂浜・干潟・浅海域・室内 【徳島県】

**阿波魚類研究会****徳島の魚をとおして徳島を知る!**

徳島県は吉野川や勝浦川、那賀川、海部川などたくさんの川が流れていて、瀬戸内海や紀伊水道、太平洋といった多様な海域に面しています。これらの川や海の中には、多種多様な魚類が生息しています。阿波魚類研究会は、徳島県に生息する魚類やそれらを取り巻く自然環境、地域文化の調査研究をとおして、徳島県の自然科学の活性化や自然環境保全を目指す団体です。県内の研究者や学校の先生など、いろいろな立場の人が集まって楽しみながら活動をしています。

E-mail/awagyoken@gmail.com

砂浜・干潟 【徳島県】

**NPOカイフネイチャーネットワーク****磯の生き物観察会**

磯に打ち上げられる海藻が少なくなり、海藻にくっついてた貝殻が見当たらないので、海岸で楽しんでいる人の姿がありません。

観察会を行うことによって、カニや魚を水槽に入れ見て楽しんだり、磯に棲んでいる生き物で海水が綺麗かどうかを調べることによって、参加者に興味を持ってもらっています。

E-mail/hitocyan@mc.pikara.ne.jp

TEL 090-5499-8391

水田・河川・里山・河口・汽水域・砂浜・干潟・室内 【徳島県】

**とくしま生物多様性リーダーチーム****素晴らしい自然の中で「学び・遊び・食べて」  
生物多様性リーダーになろう!**

勝浦川流域フィールド講座は今年で10年を迎えました。これまでに生物多様性リーダーになった方は130名以上になります。講座を修了した優秀な受講生が県知事からリーダー認定を受け、流域講座を企画運営しながら、スキルアップしていく仕組みになっています。これまで写真展やフォーラムを開催して生物多様性の大切さを広報してきました。気候変動と生物多様性の課題が地球上で大きな課題となっている現状にあって、生物多様性リーダーの活動はますます重要になってきていると感じています。

E-mail/sachiyoww@hotmail.co.jp TEL 090-2828-6181

河口・汽水域・砂浜・干潟 【徳島県】

**とくしま自然観察の会****空・川・海・ひとが出会う吉野川河口を未来につなぐ**

誰でも気軽に参加できる観察会を通じて、身近な自然を楽しみながら自然について考えるためのネットワークづくりをしようと1994年に発足。主なフィールドは、国内最大級の汽水域と河口干潟を有する吉野川。シオマネキの生息調査、干潟の清掃活動、エコツアー、干潟の動画制作、「吉野川河口みらい講座」のインターネット発信など吉野川干潟のファンをふやす活動をしています。そして、四国初のラムサール条約湿地登録をめざしています。

<https://www.shiomaneki.net/>

E-mail/kansatsunokai@gmail.com

TEL 088-623-6783

湿原・水田・河川・ため池・ビオトープ  
【徳島県】

**認定NPO  
とくしまコウノトリ基金**




## コウノトリが舞う笑顔輝く未来に

コウノトリをはじめとする鳥類の保護活動と、その活動を通じて地域を元気にする取り組みを進めています。湿地に関しては、水生動物が豊富な水環境を増やすため、耕作放棄地を再生しビオトープとして整備しています。

<https://www.t-stork.jp/>

E-mail/[info@t-stork.jp](mailto:info@t-stork.jp)

TEL 090-2825-6721



河口・汽水域・砂浜・干潟・室内【徳島県】

**吉野川  
ラムサールネットワーク**



## 吉野川を未来のこどもたちに残していきたい

助任干潟は、徳島市街地に近く身近に干潟の自然を感じられる場所です。年間を通して「春のウォーキング」「清掃活動」「干潟の観察会」「ウラギク鑑賞会」を行っています。また、吉野川河口域に関わる人たちの話や歴史を年に2～3回発行しています。

<http://www.yoshinogawa-ram.net>

E-mail/[taikazann@hotmail.com](mailto:taikazann@hotmail.com)

TEL 090-7268-9448



河川・河口・汽水域・砂浜・干潟【徳島県】

**NPO川塾**



## 川遊びを通して、「川とひとをつなぐ」きっかけ作りができればと考えます。

水辺の教室では、国内屈指の自然環境を持つ吉野川で、一年を通して遊び、学び、感じることで、吉野川の楽しさ、生態系の豊かさ、四季折々の変化を肌で感じます。また、地元の川漁師さんや吉野川で育った地元の方々に講師に招き、「川と共に生きる知恵や技術」を実践し、体感します。それらを通じ、吉野川と自分たちの暮らしとの関わりについて、感じ、考えることで、「吉野川は自分達の川」という意識を持ってもらいたいと思っています。

<https://kawajyuku.com/> E-mail/[kawatomoplus@gmail.com](mailto:kawatomoplus@gmail.com)

TEL 080-6385-4200



水田・里山・室内【徳島県】

**食と農を守る会徳島**



## 食と農の問題に取り組んでいます。多様性に富んだ種子を守り、時代に引き継ぐことを大切にしています。

私たちは種子法廃止、種苗法改正で農家の自家増殖禁止や多様性に富んだ種子が失われていくことを懸念し、学習会、映画、講演会等を開催してきました。徳島県で種子条例ができ、食の安心・安全条例に遺伝子組み換え作物等への規制が実現しました。しかし、新たにゲノム編集作物や重イオンビーム育種米が登場しています。勝浦川の源流、ブナの原生林がある高丸山、森の再生に取り組む千年の森など魅力ある上勝町で、山と里山、農地を通り、川を通じて海へと注ぐ水の循環を大切にしていきたい。

<https://www.facebook.com/groups/326448412386355>

E-mail/[hiroko19561206magnolia@yahoo.ne.jp](mailto:hiroko19561206magnolia@yahoo.ne.jp)

TEL 070-1946-3915



湿原・里山・ため池

【香川県】

## 王越とんぼプロジェクト 実行委員会



## 王越とんぼランドにはさまざまなトンボをはじめ、 貴重な動植物が残っています。

「王越とんぼランド」にはさまざまなトンボをはじめ、貴重な動植物が残っています。解説だけの観察会ではなく、五感で感じながら子どもから大人まで一緒に自然を楽しむ「かんさつ会」を行い、地域の自然を守るには何が必要かを考えます。

<https://www.city.sakaide.lg.jp/soshiki/syougaiyakusyuu/ougoshitonborando.html>  
TEL 0877-44-5025

砂浜・干潟

【福岡県】

## ウエットランドフォーラム



## 楽しむ、学ぶ、守る。都市の中の和白干潟。

和白干潟は、160万都市の中に残された自然豊かな干潟です。広くはないけれどもいろいろな環境がそろっていて、干潟観察や環境学習に最適な場所です（国指定鳥獣保護区／2003年）。一方で、急激な人口増加や、あいつぐ埋め立てなど多くの開発の影響を受けてきた干潟で、近年はアサリの減少が心配されています。2024年も「楽しむ、学ぶ、守る」です。

<https://wetland-forum.jimdofree.com/>  
E-mail/cocontei-matsu@nifty.com  
TEL 080-5251-8677

河口・汽水域・砂浜・干潟

【福岡県】

## 日本カブトガニを守る会 福岡支部



## 生きた化石「カブトガニ」の棲む海を未来に!!

福岡県下のカブトガニの生息地である北九州市、福岡市、糸島市の3地区の干潟で、カブトガニの保護やカブトガニの棲む海の保全に取り組んでいる団体です。産卵調査や幼体調査を主とした調査活動、漂着ゴミの片付けや産卵場の整備、漂着1齢幼生の救出保護などの保全・保護活動、観察会の開催やイベントへの参加、出前講座等の啓発活動を行いながら、カブトガニの棲む海を未来に残せるように地元住民や各種団体と協力しながら活動しています。特に国内でも有数の産卵・生息地である北九州市曽根干潟での活動に重点を置いていますが、調査活動の担い手を求めています。

E-mail/shun5-taka8c@jcom.home.ne.jp

河川・里山・河口・汽水域・  
砂浜・干潟

【福岡県】

## 東朽網校区まちづくり協議会 「水と緑の美化プロジェクト」委員会



## 「源流から干潟まで地域の豊かな自然を次世代へ!」

まちづくりの一環として行う自然環境を守る活動で、東朽網校区の宝である源流から干潟までの豊かな自然を活かし、環境の変遷や地域の未来を住民全体で考えていくうえで、大人から子どもまでいっしょに学ぶ体験型学習（水晶山清掃登山、昭和池清掃と植樹、朽網川河口海岸清掃、カブトガニ産卵観察会等）や草刈り、ゴミ拾いなど環境保全活動を実施しています。これらの活動を通して、山から海へ繋がる水環境が守られ、次世代へ繋ぐことの大切さを共感できる環境意識の高い人づくりを行っていくことを目的としています。

E-mail/hk-sf@ktqc03.net（東朽網市民センター）  
TEL 093-475-8861（東朽網市民センター）

河口・汽水域・干潟・浅海域 【佐賀県】

## 鹿島市役所建設環境部 ラムサール条約推進室



ラムサール条約登録湿地「肥前鹿島干潟」を中心に「保全・再生」「ワイズユース(賢明な利用)」「交流・学習」に取り組んでいます。

鹿島市役所ラムサール条約推進室は2015年に肥前鹿島干潟がラムサール条約に登録されたのを契機に設置されました。有明海の干潟やそこに暮らす生き物たちを多くの人知ってもらうためさまざまな活動をしています。とくに子供たちへの環境教育に力を入れており、小学校の授業として干潟に入って泥まみれになる「干潟体験」、肥前鹿島干潟にやってくる渡り鳥を観察する「野鳥観察」の授業を、市内全ての小学校で実施しています。また、環境や生き物をテーマにした毎月発行の漫画のお便り「らむさーだより」を市内の4～6年生全員にお届けしています。

<https://hizenkashimahigata.com/>

E-mail/ramsar@city.saga-kashima.lg.jp TEL 0954-63-3416

砂浜・干潟

【長崎県】

## 「干潟を守る日2024in諫早」 実行委員会



諫早湾は閉め切れ、生きものは命を失った。  
私たちは新たな進路を求めて道を開く。

1997年4月14日の諫早湾閉め切り以後、毎年市民による集会を持ち、干潟の生き物たちや有明海に棲む魚介類と共に生きる意味を確認してきた。これからも、その姿勢は変わらない。私たちがこの地球に生きていく限り、共に生きる姿勢を堅持しなければ、その未来に展望を見出すことはできない。

E-mail/mitachi-yama@iga.bbq.jp

TEL 0957-25-2328

河川・里山・河口・汽水域・  
砂浜・干潟

【熊本県】

## 八代野鳥愛好会



球磨川河口干潟の素晴らしさを次世代へ

本会は鳥好きの人が集まって1988(昭和63)年4月に創立され、鳥と親しみながら野鳥たちの暮らしが守られ人と野鳥が上手に共生することを目指す活動を続けて35年たちました。2011(平成23)年からラムサール・ネットワーク日本の湿地のグリーンウェブ事業に協賛し、春の渡り期(4月)と秋の渡り期(8月)には「球磨川河口がんばれ! シギ・チドリ類観察会」を開いてシギ・チドリ類の渡りを応援するイベントを実施しています。今年も応援します。

<http://yatsushiro-birdclub.com>

E-mail/nnjy615@yahoo.co.jp TEL 090-3328-4970

河川・ため池・河口・汽水域・  
砂浜・干潟

【大分県】

## 特定非営利活動法人 水辺に遊ぶ会



生きもの元気、子どもも元気、漁師さんも元気な中津干潟を100年後も…

瀬戸内海最大の中津干潟の保全活動を中心に、大分県中津市とその周辺の水辺環境で楽しく活動をしている団体です。秋から春にかけては小さな渡り鳥たちが干潟で元気に飛び回っています。夏は、カブトガニやアオギスなどの海の生きものたちが、これまた元気に泳ぎ回っています。私たちは、その周りをさらに元気に跳びまわっています。小さな干潟の博物館「ひがたらば」に遊びに来てね。

<http://mizubeniasobukai.org/>

E-mail/info@mizubeniasobukai.org TEL 0979-77-4396

湿原

【宮崎県】

## 川南湿原を守る会



### 希少植物の芽吹きを願う

川南湿原は、川南町の中央部に広がる湿原です。標高50m前後、面積は約33,000㎡で、新橋溜池から東に植物群落が広がります。1974(昭和49)年に国指定天然記念物に指定され、植物の種類は78科298分類で、うち約170種類が希少植物です。希少植物保護のために1995(平成7)年度から調査を開始し、2010(平成22)年度に整備が完了。湿原が一般公開されてからは、ボランティア団体「川南湿原を守る会」が園内の監視、案内、環境整備、植物の保護活動などに取り組んでいます。こうした地道な保全活動が実を結び、「未来に残したい草原の里100選」の1つに選ばれました。

<https://www.town.kawaminami.miyazaki.jp/soshiki/12/1507.html>

E-mail/sports@town.kawaminami.miyazaki.jp

TEL 0983-27-8020

砂浜・干潟・浅海域

【沖縄県】

## 泡瀬干潟を守る連絡会



### 泡瀬干潟をラムサール条約湿地登録をさせるために活動している

泡瀬干潟の埋め立てに反対する活動をしてきました。埋め立て予定を半分にはさせることはできました。半分は埋め立てが進行していますが、まだ完成していません。私たちは残る干潟をラムサール条約湿地に登録させる運動をしています。沖縄市長などが登録に反対しているために、沖縄県は努力していますができません。登録できる運動をしています。

E-mail/save\_awasehigata@yahoo.co.jp

TEL 090-5476-6628

浅海域

【沖縄県】

## 浦添西海岸の未来を考える会



### 南部に残った貴重な自然海岸、那覇空港から20分で行けます。

沖縄本島南部に残された貴重な、沖縄の原風景ともいえるサンゴのリーフ(沖縄でイノーといいます)が広がる浅海域です。子どもたちが大好きな、カクレクマノミにも出会える海が、那覇空港から車で20分のところに残っているのです。普天間基地の移設と同じように、那覇米軍港を返還するための代替地に選ばれ、海のど真ん中にサンゴの海を破壊し埋め立て、米軍軍港をつくる計画です。この海をそのまま子どもたちに手渡していきたい。願いを込めて行動しています。

X @UrasoeMirai インスタグラム urasoesmirai

E-mail/biwamarubeebee@gmail.com

TEL 080-8178-1362



## ラムサール・ネットワーク日本について

ラムサール・ネットワーク日本(略称:ラムネットJ)は、日本各地の湿地に関わるグループや個人から成り立っている湿地保全のための環境NGOです。2009年4月に設立し、同年9月にNPO法人として認可されました。

ラムネットJは、湿地保全のための国際条約であるラムサール条約の考え方・方法に基づき、すべての湿地の保全・再生、賢明な利用を実現するために、この「湿地のグリーンウェイブ」や「田んぼの生物・文化多様性2030年プロジェクト」といった普及啓発活動をはじめ、調査研究、政策提言などさまざまな取り組みを行っています。また、国際的なNGOである世界湿地ネットワークとともに、韓国など各国の湿地保全団体と連携した活動も行っています。

## 会員になって活動の支援をお願いします！

ラムネットJの活動は、会員の皆さまからの会費やカンパ、助成金などでまかっています。ぜひ、ラムネットJのサポーター(一般賛助会員)になって会の活動を支援してください。もっと積極的に湿地保全にかかわりたい方は、会の運営や活動を担う一般正会員としての入会をお待ちしています。また、団体としての入会も可能です。

会員になると専用のメーリングリストに参加できます。また、年数回発行の「ラムネットJニュースレター」をお送りします。

- 入会方法：郵便振替用紙(払込取扱票)の通信欄に、ご希望の会員種別、お名前、住所、電話番号、Eメールアドレスをご記入の上、年会費をお振り込みください。
- 年会費：一般賛助会員 2000 円、一般正会員 5000 円
- 送金先：ゆうちょ銀行 振替口座 00140-0-765702 ラムサール・ネットワーク日本
- カンパも上記の口座までお願いします。

▶詳しくはQRコードから入会案内  
(<http://www.ramnet-j.org/join/>)へ  
アクセスしてください。



〈問い合わせ先〉ラムサール・ネットワーク日本 湿地のグリーンウェイブ係  
・ホームページ:<http://www.ramnet-j.org/gw/>  
・フェイスブック:<https://www.facebook.com/groups/2358414017722340/>  
・問い合わせ先:E-mail:[gw@ramnet-j.org](mailto:gw@ramnet-j.org)

主催／ラムサール・ネットワーク日本  
〒110-0016 東京都台東区台東1-12-11 青木ビル3F TEL/FAX 03-3834-6566  
Eメール [info@ramnet-j.org](mailto:info@ramnet-j.org) ウェブサイト <http://www.ramnet-j.org/>

後援／WWFジャパン、日本野鳥の会、日本自然保護協会、IUCN日本委員会、  
日本国際湿地保全連合